日韓大学生フィールドトリップ２００７

実施概要

平成２０年３月

国土交通省総合政策局観光資源課

目　　次

１．日韓大学生フィールドトリップ事業の概要　　・・・・・・・・・・・・　１

２.「日韓大学生フィールドトリップ２００７」の概要　　・・・・・・・・・・・　４

（1）日韓大学生フィールドトリップ2007の全体日程　・・・・・・・・・・・　４

（2）日韓大学生フィールドトリップ2007の行程概要　・・・・・・・・・・・　５

（3）日韓大学生フィールドトリップ2007交流会概要　・・・・・・・・・・・　７

（4）全体総括　・・・・・・・・・・・11

（5）日本側参加学生の感想　・・・・・・・・・・・12

３．２００８年３月実施予定の事業概要　・・・・・・・・・・・13

１．日韓大学生フィールドトリップ事業の概要

（1）趣旨

日韓間の交流の一層の拡大を図るため、2006年5月15日、北側国土交通大臣と金（キム）韓国文化観光部長官との間で「2006日韓観光交流拡大共同事業に関する日本国国土交通大臣・観光立国担当大臣と大韓民国文化観光部長官との共同声明」が取りまとめられ、その中で、「5．教育旅行や観光学科大学生による交流など、若い世代の交流旅行を促進する。」こととされた（別紙1参照）。さらに、2008年9月の共同声明では「2．　両国の未来の基礎となる青少年交流を通じて、未来志向的な関係構築のため、教育旅行やフィールドトリップ交流会の活性化、交流プログラム開発など青少年交流を促進する。」とされている（別紙2参照）。

本事業は、上述の共同声明の中で提案されている「観光学科大学生による交流など、若い世代の交流旅行の促進」の内容を具体化するものであり、日本及び韓国の観光学科等に所属する大学生同士の交流・意見交換、観光地の実地見学等を通して、将来の観光を担う人材の育成を図るとともに、青少年交流の拡大を促進するものである。

（2）目的

〇日韓両国の大学生間の相互訪問交流を通じた、人的交流活性化の基盤作り
〇日韓両国の観光業界を志望する大学生たちの両国観光市場に対する理解増進を図り、観光専門人材を育成する

（3）主催

国土交通省、韓国文化観光部

（4）対象

日韓両国の観光専攻の大学生

（5）主要事業内容

〇日韓観光政策担当政府機関及び関係機関関係者との面談を通じた両国観光政策に対する理解増進
〇日韓両国内の観光地視察
〇日韓観光専攻の大学生間の交流会実施

（6）これまでの実績

〇第1回（日本開催）
・開催期間 ： 2006年9月10日～15日（6日間）
・交流会参加者 ： （韓国側）20大学より学生20名、引率教授2名
（日本側）立教大学より学生10名、引率教授2名
横浜商科大学より学生14名、引率教授1名

〇第2回（韓国開催）
・開催期間 ： 2007年9月3日～8日（6日間）
・交流会参加者 ： （日本側）14大学より学生20名、引率教授2名
（韓国側）20大学より学生20名、引率教授2名

（別紙1）

2006日韓観光交流拡大共同事業に関する日本国国土交通大臣・観光立国担当大臣と大韓民国文化観光部長官との共同声明

両国の観光担当大臣（以下「両大臣」という。）は、2004年7月22日に署名された「観光交流の拡大に関する日本国国土交通大臣と大韓民国文化観光部長官との共同声明」にて、日韓友情年たる2005年を「日韓共同訪問の年」と定め、観光交流の拡大のために各種の事業を実施してきた。

両大臣は、こうした2005年の観光交流の成果を踏まえ、日韓間の交流をさらに拡大していくことが重要であるとの認識を共有し、以下の事業を「2006日韓観光交流拡大共同事業」と定め、共同して取り組むこととした。

1. 両国が任命している観光広報大使の協力等により、観光プロモーション活動を一層強化する。
2. コリアウィーク、日韓交流おまつり等の機会に、観光交流拡大のため、大規模共催イベントを開催する。
3. 姉妹都市活性化シンポジウムの実施を通じ、地方自治体間交流を一層活性化させる。
4. 旅行商品の企画や観光展への出展等を通じて、地方観光及び都市観光の促進を重点的に実施する。
5. 教育旅行や観光学科大学生による交流など、若い世代の交流旅行を促進する。
6. 両国で実施される演劇など各種の文化・スポーツイベントを通じた交流を促進する。
7. 観光関連施設における日本語・韓国語表記の推進など、旅行者の受入れ環境を整備する。
8. 観光交流の拡大に貢献した者を激励する功労者表彰制度を実施する。
9. 東アジアにおける観光交流を拡大するため、日中韓観光担当大臣会合を開催する。

両大臣は、以上のような努力により、両国間の観光交流の更なる拡大を通じて、両国の相互理解と友好親善が一層深まることを期待する。

2006年5月15日、東京において日本語及び韓国語で各一通署名した。

日本国国土交通大臣・観光立国担当大臣　　大韓民国文化観光部長官
北 側　一 雄　　金　明 坤

（別紙2）

2008日韓観光交流拡大共同事業に関する日本国国土交通大臣・観光立国担当大臣と大韓民国文化観光部長官との共同声明

日韓両国は 2005 年の「日韓共同訪問の年」以降、両国間の観光交流拡大のため各種の共同事業を継続して実施しており、2008 年までに両国間の交流規模は 500 万人を突破することが確実である。

両国がそれぞれ掲げる 2010 年に外国人観光客誘致 1,000 万人の目標を達成するためには、両国間の観光交流及びその他の地域からの観光客誘致における一層の協力強化が重要であるとの認識を共有し、両国の観光担当大臣（以下両大臣と称する）は 2008 年を「日韓観光交流年」と定め、以下の事業を共同して取り組むこととした。

1. 両大臣が共同でトップセールスを行う「日韓観光交流の夕べ」等の交流事業を持続的に開催する。
2. 両国の未来の基礎となる青少年交流を通じて、未来志向的な関係構築のため、教育旅行やフィールドトリップ交流会の活性化、交流プログラム開発など青少年交流を促進する。
3. 両国間姉妹都市の拡大が両国民の相互理解の重要な役割を果たすとの認識のもと、姉妹都市活性化のためのシンポジウム開催等を通じ、地方自治体間交流を一層活性化させる。
4. 両国の各地で開催される様々な観光展への出展等を通じて、地方観光の促進を重点的に実施する。
5. 両国で実施される各種の文化・スポーツイベントを通じた交流を促進する。
6. 観光関連施設における日本語・韓国語表記の推進など、旅行者の受入環境を整備する。
7. 観光交流の拡大に貢献した者を激励する功労者表彰制度を今後も実施し、両国の観光関連業界の発展を図る。
8. 2008年8月の北京オリンピックと連動し、両国が協力して旅行商品造成及びPR等を実施し、域外からの観光客誘致に努力する。

両大臣は、以上のような努力により、両国間の観光交流の更なる拡大を通じて、両国の相互理解と友好親善が一層深まることを期待する。

2007年9月21日、東京において日本語及び韓国語で各一通署名した。

日本国国土交通大臣・観光立国担当大臣　　大韓民国文化観光部長官

冬 柴 鐵 三　　金 鍾 民

2. 日韓大学生フィールドトリップ2007の概要

（1）日韓大学生フィールドトリップ2007の全体日程

日　付	都市名	交通	時　間	内　　容
第1日 9／3 （月）	ソウル	航空機 バ　ス	20:00	ソウル仁川空港または金浦空港着 ソウル市内へ、ホテルチェックイン 食事会場 （在外大使館業務説明・自己紹介） （ソウル泊）
第2日 9／4 （火）	ソウル		09:30～ 11:30～ 14:30～ 16:30～	韓国政府文化観光部　事業説明会 （韓国観光行政・コンベンション誘致等） ソウル特別市　事業説明会 （ソウル特別市における観光行政） 国際会議展示施設 COEX　事業説明会 （ソウル泊）
第3日 9／5 （水）	ソウル 安　東 慶　州	バ　ス	09:00 13:00～ 17:30 21:30	安東へ移動 安東市内視察 （安東民俗博物館、陶山書院、河回仮面博物館、安東河回村） 慶州へ移動 慶州着 （慶州泊）
第4日 9／6 （木）	慶　州	バ　ス	09:30～ 17:00～ 17:30～ 18:30～	慶州市内見学 （世界遺産：仏国寺、石窟庵、雁鴨地、慶州国立博物館） 韓国観光政策『慶北訪問の年』説明会 （慶北道主催） 慶北道主催夕食懇談会 慶州世界文化EXPO開幕式（前夜際） （慶州泊）
第5日 9／7 （金）	慶　州 東大邱 ソウル	バ　ス KTX	10:05 11:50 14:00～ 18:00	慶州より東大邱駅へ移動 東大邱駅よりKTX（韓国新幹線）にてソウルへ ソウル駅着 「『日韓大学生フィールドトリップ2007』交流会」 （韓国の観光を専攻する大学生との交流会） 交流夕食会（韓国観光公社主催） （ソウル泊）
第6日 9／8 （土）	ソウル	バ　ス	07:00～	空港へ移動 ※帰国航空便の時間にあわせ空港へ 帰国

（2）日韓大学生フィールドトリップ2007の行程概要

第1日目（9月3日（月））

〇参加者の住所に応じて札幌、東京（羽田）、中部、関空、福岡の5空港から出発。

〇ホテル到着後のオリエンテーションでは、在大韓民国日本大使館谷川一等書記官を招き、在外公館の業務概要説明。

第2日目（9月4日（火））

〇午前、韓国政府文化観光部を訪問し韓国の観光行政と事業説明、韓国観光公社（KTO）よりコンベンション誘致事業説明。

〇午後、ソウル市庁を訪問しソウル特別市における観光行政説明。
その後、韓国最大の国際会議展示施設『COEX』を訪問し、施設視察及び運営に関する説明。

文化観光部説明資料（抜粋）

第3日目（9月5日（水））

〇慶尚北道北部の中心、安東市へ。

〇慶尚北道観光産業課、安東市文化観光課の出迎え。
（財）安東祝祭観光組織委員会　崔　宗燮氏の説明と案内により、安東民族博物館・陶山書院・河回仮面博物館・安東河回村を視察。

〇夕方慶州に移動。

慶尚北道・安東市より歓迎の挨拶

地元のテレビ取材も（安東民俗博物館）

第4日目（9月6日（木））

〇慶州市名誉通訳案内員　金　英伊氏による説明と案内により、世界文化遺産の石窟庵、仏国寺をはじめ、天馬塚・雁鴨池・慶州国立博物館を視察。

〇慶尚北道観光産業課による「2007慶北訪問の年」説明会、慶尚北道の主催による夕食懇談会に続き「慶州世界文化エキスポ」開幕式（前夜祭）に参加。

「2007慶北訪問の年」説明会

慶州世界文化EXPO開幕式前夜祭

第5日目（9月7日（金））

〇韓国新幹線（KTX）でソウルへ。

〇午後、韓国観光公社会議室で「『日韓大学生フィールドトリップ2007』交流会」開催。

韓国観光公社主催による夕食懇談会

第6日目（9月8日（土））

〇出発便と同じく、札幌、東京（羽田）、中部、関空、福岡の各空港に向け帰国。

（3）日韓大学生フィールドトリップ2007交流会概要

①「『日韓大学生フィールドトリップ』交流会」次第

「日韓大学生フィールドトリップ」交流会

1. 日　　時 ： 2007. 9. 7(金)、14：00～17：00
2. 場　　所 ： 公社3階 「T2アカデミー」
3. 参　加　者 ： 韓国側　大学生20名、教授2名
　　日本側　大学生20名、教授2名
4. 司　　会 ： 韓国観光公社　シン・ソキョン課長
5. 発 表 進 行 ： 江陵大 キム・キョウスク教授
6. テ　ー　マ ： ①地域活性化のための観光地づくり
　　②日韓間観光産業の発展のための人的交流方策
　　③世界遺産など観光資源の保存や活用のありかた
7. 進　　行:

	時間	所要時間	内容
挨拶	14:00～14:05	5	韓国側教授（1名）
	14:05～14:10	5	日本側教授（1名）
JNTO	14:10～14:20	10	ＪＮＴＯ 事 業 紹 介
① テーマ発表	14:20～14:35	15	韓　国　側　発　表
	14:35～14:50	15	日　本　側　発　表
	14:50～15:05	15	意　見　交　換
	15:05～15:10	5	― 休　憩 ―
②テーマ発表	15:10～15:25	15	日　本　側　発　表
	15:25～15:40	15	韓　国　側　発　表
	15:40～15:55	15	意　見　交　換
	15:55～16:00	5	― 休　憩 ―
③テーマ発表	16:00～16:15	15	韓　国　側　発　表
	16:15～16:30	15	日　本　側　発　表
	16:30～16:45	15	意　見　交　換
	16:45～16:50	5	― 休　憩 ―
講評	16:50～17:00	10	日本側教授（1名）
	17:00～17:10	10	韓国側教授（1 名）

②日本側参加者

（団　長）　松本大学　総合経営学部観光ホスピタリティ学科長・教授
佐藤　博康
（副団長）　横浜商科大学　商学部貿易・観光学准教授
宍戸　学

（学　生）　1. 北海商科大学 商学部観光産業学科（2年）
2.　〃　〃　〃　（2年）
3. 東洋大学 国際地域学部国際観光学科（4年）
4. 流通経済大学　社会学部国際観光学科（3年）
5. 明海大学　ホスピタリティ・ツーリズム学部
ホスピタリティ・ツーリズム学科（1年）
6.　〃　〃　〃　（3年）
7. 城西国際大学　観光学部ウェルネスツーリズム学科（2年）
8.　〃　〃　〃　（2年）
9. 立教大学　観光学部交流文化学科（2年）
10.　〃　〃　〃　（2年）
11. 帝京大学　経済学部観光経営学科（2年）
12. 横浜商科大学　商学部貿易・観光学科（4年）
13.　〃　〃　〃　（3年）
14. 松本大学　総合経営学部観光ホスピタリティ学科（1年）
15. 鈴鹿国際大学　国際学部観光学科（4年）
16. 和歌山大学　経済学部観光学科（1年）
17.　〃　〃　〃　（1年）
18. 山口大学　経済学部観光政策学科（2年）
19. 西南女学院大学　人文学部観光文化学科（1年）
20. 長崎国際大学　人間社会学部国際観光学科（4年）

③韓国側参加者

（学　　生）　１. 大邱カトリック大学（3年）
２. 龍仁大学　（4年）
３. 済州大学　（3年）
４. 東亜大学　（3年）
５. 順天郷大学　（4年）
６. 世明大学　（3年）
７. 湖南大学　（3年）
８. 世宗大学　（3年）
９. 大邱大学　（4年）
１０. 漢陽大学　（4年）
１１. 江陵大学　（3年）
１２. 東義大学　（3年）
１３. 京畿大学　（4年）
１４. 啓明大学　（4年）
１５. 江原大学　（3年）
１６. 青雲大学　（3年）
１７. 木浦大学　（3年）
１８. 慶州大学　（3年）
１９. 慶熙大学　（3年）
２０. 釜慶大学　（4年）

④交流会総括

「日韓大学生フィールドトリップ交流会」を振り返って

フィールドトリップの 5 日目（9 月7日）に、当事業の最重要プログラムである日韓学生による交流会が、韓国観光公社の 3 階の T2 アカデミーにおいて開催された。

日韓双方から、各 20 名の学生と各 2 名の教員が参加し、3つの共通テーマのもと、それぞれの国の観光の取り組みについての研究報告と活発な意見交換が行われた。同時通訳者の助けもあり、お互いが言葉の壁を越えて、思うところを自由に議論することが出来た。

テーマ1「地域活性化のための観光地づくり」で、慶熙大学の学生さんは、各国の優れた祭りの事例を紹介し、その後韓国の地域活性化に寄与できる祭りのある方を提示した。松本大学の学生さんは、地元の住民たちによる地域活動を通して、地域住民の参画の重要性と、積極的に人々が交流することで、地域に活力が出てくるという事例を報告した。意見交換においては、日韓の祭りの目的や宗教・文化観など、祭りに対する認識の違いも明らかになった。

テーマ 2「日韓間観光産業の発展のための人的交流方策」では、横浜商科大学の学生さんは、日本の観光人材育成の現状を説明し、初等教育や地域でも観光・ホスピタリティ教育が広がっていることを示し、産業発展のための高度な観光教育の充実を図るだけではなく、青少年達の交流を行うことで、日韓両国が相互理解をすることが不可欠であると指摘した。

江陵大学の学生さんは、日韓交流のこれまでの経緯と政府レベルの政策を取り上げ、具体的な交流機会の手法として、自転車を利用した若者の歴史文化体験の交流について提案した。このテーマを巡っては、教育の重要性については双方が十分認識し、それを実行するための具体的政策についての議論が行われた。青少年交流の視点では、両国の修学旅行に関心が寄せられ、相違点やその具体的なプログラムの状況と活用について活発な議論が行われた。

テーマ3「世界遺産など観光資源の保存や活用のありかた」について、東亜大学の学生さんは、世界遺産の意義や現状と韓国の世界遺産について報告した後、「海印寺蔵経板殿」を例に、今後の活用と保全の方策について報告した。山口大学の学生さんは、観光の持続可能性について、経済と環境の視点から、世界遺産が直面する諸問題について、新たに世界文化遺産に選定された石見銀山を例に、その課題解決に向けての提案を行った。当テーマについては、持続性への提案について、例えば人的対応の継続や保全の仕組みについて、意見交換が行われた。

お互いの研究発表と意見交換から、自国の取組みを伝えるとともに、相手国の取組みと比較することで、お互いの相違点や相手国の優れた取り組みについて、多くを学べたように思うが、当交流会の成果を、以下で3つに絞ってまとめてみたい。

一つ目は、相互の文化や歴史の違いに気づき、学ぶことが出来たということである。交流があればこそ、自らに気づくといえるだろう。二つ目は、持続性や人的交流を考えるにあたり、自分たちに出来ることや自らの役割に確信が持てたということ。日ごろの学びや活動が、未来の観光に繋がっているという自負心が生まれたのではないだろうか。三つ目は、同じ学問や関心によって結ばれた若者の交流は、言葉の壁を乗り越え、より深く関わり、お互いの関係構築へと強い関心を持つに至ったということである。言葉は通じなくても、同じ専門と関心を基盤に若者は自由に交流を行える能力を有している。

交流会の開始時の緊張ムードは、発表と議論を経て、お互いの理解とともに考え、協働するというムードに変わっていったようである。当事業の意義について、確信できた瞬間である。

横浜商科大学商学部貿易･観光学科准教授　宍戸　学

（4）全体総括

「日韓大学生フィールドトリップ 2007」を振り返って

2007 年度は、日本の大学生が韓国を訪問して韓国の大学生有志と意見を交わすことになり、微力ながら団長として参加させていただいた。

全国から選りすぐられた観光を学ぶ学生諸士 20 名と、副団長として横浜商科大学の宍戸学先生を加え総勢 22 名の訪問団で、9 月 3 日から 5 泊 6 日の日程で実施された。だれ一人として体調を壊すことなく、またトラブルもなく、各地での視察、交流など韓国滞在を満喫して帰国し、団長としての役割を無事果たせたことに安堵している。副団長として学生の統率や適切な指導などリーダーシップを発揮していただいた宍戸先生、そして常に明るく固いまとまりを見せ日本の若者らしさをアピールしてくれた 20 名の学生たちに深く感謝したい。

今回韓国側の主催者となった韓国文化観光部および韓国観光公社をはじめソウル市や安東市、慶州市など日本側訪問団を受け入れてくださった各地の関係機関には心温まる歓迎とおもてなしを頂戴した。おかげで、韓国の観光事情・文化視察という面でも大きな成果をあげることができたものと考えている。

とりわけ日韓の観光を学ぶ大学生同士による意見交換では、互いにテーマ性をもって堂々と意見を主張しあうなど、次世代の日韓交流あるいは観光を通した国際理解に向けての可能性を垣間見ることができたように思われる。

参加した学生たちは今後とも互いの交流を深めていくものと思われるが、このように理解を深めることで日韓の観光交流も更なる飛躍が期待できるのではなかろうか。

観光分野の学生交流はまだ始まったばかりのようであるが、この動きを教育の現場や観光の学びの場にどのように生かしていくか、また、学生間交流から大学間交流への伸展が生まれていくのかどうかは今後の課題である。

また、いまひとつの課題として、さらなる交流を深めるうえで、両国の外国語コミュニケーション能力育成の方向性も見えたように思う。それは意見交換会を始め各関係団体によるプレゼンテーションのほとんどが現地語でなされていることであり、日本の大学生がどれほど理解できたかが若干気になった。今後相互の言語能力修得カリキュラムの展開や英語などの共通語が互いに利用できるような環境づくりを考えてもよいのではないかと感じられた。このことはまさに、観光を通した国際的な理解力の教育にも結びつくポイントでもあろう。観光分野における人材育成を考え、国際水準を維持する上では、とりわけ日本側の学生たちにとっては必要なことではないかと思う。

観光分野における国の支援による次世代交流の育成が今後とも継続され、若い人々の異文化理解と交流に貢献するプログラムとなることを心より期待したい。

最後に、韓国政府、日本政府および在韓日本大使館など今回の「日韓大学生フィールドトリップ 2007」プログラムに携わった数多くの関係者の方々に心より感謝申し上げたい。

松本大学観光ホスピタリティ学科教授
佐藤博康

（5）日本側参加学生の感想

2年生・男性

〇日本と韓国には様々な観光政策や文化の違いはあるが、観光に対する思いは日韓ともに根本的に同じであると私は考えています。それは、今回の日韓大学生交流会でお互いの国の魅力を教えられて改めて韓国の魅力というものがわかったからです。その国の事を知る為には自分で訪れて感じて初めて分かるものなのです。やはり一番大切なことは人と人とのコミュニケーションであると私は今回のフィールドトリップで実感しました。

4年生・女性

〇韓国の学生とは、同じ観光を学ぶ学生同士ということで、日本や韓国の観光や文化について話をしましたが、自分が自分の国の観光についての知識がまだまだ足りないということに気づかされました。これから、さらに勉強に励まなければという意欲が湧きました。また、もっと韓国について知りたいと思うようになり、韓国語や文化について学ぼうと思いました。

3年生・男性

〇今回の日韓大学生フィールドトリップは、私にとって、とても価値のある、貴重な財産になったと思う。将来、観光に関する職に就きたい私にとって、日本と韓国の観光発展の方法、具体的対策、両国の方法や対策の違い、いろいろな知識を得ることが出来、韓国という国の歴史の深さ、大きさを知ることが出来た。

2年生・女性

〇名所を回るのもいいですが、人と人との交流が一番だなと思えた。この事業に対して改善点としても、学生間の交流機会の拡大をお願いしたいです。やはり一番異文化を感じ、気軽に意見交換を取れる場を通して、国と国との交流へも発展出来るのではないかなと思います。

1年生・女性

〇このような文化交流の機会を与えていただいたおかげで、自分の国についても真剣に考えることができたし、日本の良さ、改善点ともに見つめることができた。同じ立場の学生と意見を交わせたことで、韓国の学生が観光に対して一人ひとりが観光に対して自分の意見を持っている姿に本当に刺激を受けた。

2年生・女性

〇このフィールドトリップで最も強く感じたのは、韓国の人たちの力強さです。交流会では非常に意欲的で、具体的な方策を出していただいた点でディスカッションが積極的に行われたのだと思います。しかしながら、私の場合、韓国の観光政策などの実情をよく知らなかったので、事前にもう少し情報をいただき、国情の違いをしっかりと認識していれば、より良い研修ができたのではないかと残念です。

韓国の大学生との交流が最後の１日だけであったのも残念です。交流会では時間が足りなくなり、十分な議論ができませんでした。また、関係機関の説明に加え、韓国の学生・日本の学生それぞれどのような観光政策を学んでいるかをディスカッションすることができたのならば、より有意義になったのではないかと思います。

３．2008年3月実施予定の事業概要

（1）実施期間　 2008年3月 17 日（月）～22日（土）

（2）韓国側参加 30名（うち学生28名）が来日予定

（3）行程案の概要

〇横浜商科大学　羽田教授、宍戸準教授のご協力により、同大学の学生との研究発表交流を実施予定。
（予定テーマ）
・韓日観光教育現状及び特性の分析
・新しい観光の流れ－グリーンツーリズム　 等

〇YOKOSO！JAPAN大使　横江友則氏（（株）スルッと KANSAI 代表取締役専務）のご協力により、同社でのインバウンド施策を韓国側学生に説明予定。また、観光を活用したまちづくりを実施してきた地域を韓国側学生が見学予定。